

1月12日(月)

良い結果どころか

聖書朗読 マタイ 7:1~6

さばいてはいけません。さばかれたいからです。

マタイ 7:1

誰かを即座に裁いてしまうことは、良い結果よりもむしろ悪い結果を招くこととなります。私たちはある人の習慣や振舞いを、どうしても認められないこともあります。その人の行いを即座に裁くことは、同時にその人を証拠もなく罪に定めることにもなるのです。性急に判断を下すのは、パラシュートなしに空からダイビングするようなものです。

誰かをすぐに裁くことで、自分自身が恥ずかしい思いをしたことはないでしょうか。先週、私の前の車が制限速度よりもゆっくりと運転していたので、私はいらいらしてついクラクションを鳴らし、そののろまなドライバーを追い越しました。するとなんと、そこにはお葬式に参列する車が並んでいたのです。私に言い訳の余地はありませんでした。

状況も知らずに、誰かの行いを性急に判断することで、自らが恥ずかしい思いをすることもあり、誤った判断であることもあるのです。イエス様は、「正しい判断」について、たとえ私たちが認められないような生き方をしている人に対しても、まず寛容に接することを教えておられます。他の人の生き方について正しく判断しつつ、私たち自らの振舞いも注意深く吟味すべきでしょう。

イエス様に従う者の一人が、かつてこのように書き記しています。『もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。』(ガラテヤ6:1)

讃美歌 66

祈り 親愛なる神様。あなたの柔和な御霊で私を満たしてください。あなたの赦しという恵みにより、私を裁きから救ってくださったことを思い出させてください。そして私が他者を裁くことがないようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ウィリアム・E・ヤング
テキサス州 アビリン

今日の方

2015年1月12日~1月18日

翻訳 藤岡伸子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

1月13日(火)

自己犠牲による献身

聖書朗読 マタイ 16:24~28

人は、たとえ全世界を手に入れても、まことのいのちを損じたら、何の得がありません。そのいのちを買い戻すのには、人はいったい何を差し出せばよいでしょう。

マタイ 16:26

アルダス・マヌティウスという人は、15世紀に出版の分野で活躍していた人物ですが、その時代というのは、教養のある人々が古典文学に深く傾倒している時代でした。マヌティウスには、ギリシャ語やラテン語の古典文学を翻訳して小冊子にまとめるという、飽くことのない情熱がありました。彼のお蔭で、ギリシャ語やラテン語を学ぶ機会のないごく一般の人々も、そのような古典文学を手にすることができるようになったのです。ある伝記作家は彼について、「書物に関わる歴史上の人物のうち最も偉大な人物」と評しています。私たちはみな、彼の献身的な働きによる恵みを受けています。彼はこう書き記しています。

「私は学問に全人生を捧げる決意をした。気楽で自由な生き方ではなく、不安に満ち、骨の折れる仕事を選んだのである。人は、自らの楽しみを求める以上に、より重大な責務を有するのであり、自らを崇高な働きに捧げるべきである」。

私と同年代のある説教者が、説教で、ある箇所について例をあげて分かりやすく説明しようと、ギリシャ語の新約聖書を引用したところ、説教後に、ある老年の女性が彼にこう尋ねました。「聖書を理解するのにギリシャ語を知らなくてはなりませんか」と。すると彼は、こう答えました。「そんなことはないですが、必要な人もいます」。

讃美歌 361

祈り 神様。私たちが自分たちの言葉であなただけのみことばを読むことができるよう、そのために自らを捧げてくれた人々を与えてくださり感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ロバート・ローレンス
ネブラスカ州 ヨーク

1月14日(水)

最大のジレンマ

聖書朗読 マタイ 16:13~23

イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ、サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

マタイ 16:23

ペテロが「あなたは、生ける神の御子キリストです」と言いましたが、イエス様は、ご自分が殺されることを弟子たちに示し始められました。イエス様は王でなければならず、殺されるはずがない。けれども、後にイエス様は弟子たちに、ご自分が十字架に架かれることとお話になったのです。弟子たちは愕然とし、全く信じる事が出来ませんでした。

その9か月後、イエス様は園で捕えられました。ペテロは、現実的には勝ち目はないが、救い主のために闘い、なんとか勝利を得られると思っていました。

ペテロは自らを危険にさらし、庭へ入って行きました。彼はその時までイエス様を救う道を探していたのではないのでしょうか。けれども、神を救うなどということは人間にできるはずありません。そして、彼は、群衆の中にいつまでも留まっていることはできず、鶏が鳴く前に、自分は決してしないと断言していたまさにその通りのことをしたのです。彼はショックを受け、後悔の念に苛まれました。そこでペテロは気づかされたのです。神のなさることは、自分の思う通りではない。いかなる状況にあっても、ただキリストを知ることこそが真の生き方であり、天の御国において自分を益としていただけるものなのだ。

ペテロはコリント人に宛てて、次のように書いています。『しかし、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、異邦人にとっては愚かでしょうが。』(Iコリント 2:23)

讃美歌 第二編 45

祈り 親愛なる主よ。あなたの御愛と知恵に驚かされます。お父様、どうかあなたがすべてを負ってくださることを知る深い信仰をお与えください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アル・コーネル
ウィスコンシン州 ヒルズボロ

1月15日(木)

グランドフィナーレ

聖書朗読 マタイ 24:33~35

主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。
Iテサロニケ 4:16

花火のグランドフィナーレは、実に圧巻ではないでしょうか。私は子どものころ、その最後を見逃してしまうのではないかといつも心配で、2つか3つ同時に花火が上がると、両親に「今の最後だったと思う？これで終わりかな？」と確認したものです。幾度もそんなことがありましたが、勿論、確実に終わりはやってくるのです。

私の花火の体験のように、終わりの時を推し測ろうとすることはないでしょうか。「終わりが近いのではないか？このような事象はイエス様の再臨のしるしではないか？」と。けれども、聖書にはこうあります。『その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。』(マタイ24:36)

イエス様の再臨は、間違いなくやってきます。『天は大きな響きを立てて消え失せ』ます。(IIペテロ3:10)見逃すことはありません。

イエス様の再臨と、私たちの知るこの世の終わりは、間違いなくやってきます。『神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。』(IIペテロ3:12)とあるように、待ち望みつつ、聖く敬虔な生き方をさせていただきましょう。その日こそが、グランドフィナーレでしょう。

讚美歌 170

祈り 主なる全能の神様。あなただけがイエス様の再臨の時をご存知です。その偉大なる日に備えて、希望をもって、私たちが日々歩むことができるようにしてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジョシュ・ボイド

インディアナ州 ラファイエット

1月16日(金)

数えてみよ主の恵み

聖書朗読 マタイ 25:14~30

私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。

エペソ 1:3

タラントの教えの中で、主人は大切な財産を僕らに託し、託された財産を用いてもうけるよう命じましたが、僕の一人はそれを使うことを恐れ、その宝を隠しておいたという箇所があります。

この出来事は今日にも言えることです。私たちは、素晴らしい恵みと呼ぶ貴重な財産を託されています。良き僕のように、私たちもその恵みを他の人々と分かち合うよう命じられています。何も持っていないかのように、隠しておくべきではありません。

与えられている恵みは素晴らしいものです。「あらゆる霊的な恵み」をいただいています。神様は私たちが力を得、成長するのに必要なものはすべてお与えになります。恵みを隠しておこうという思いが生じたとき、神様はそれらを用いる勇気と機会を私たちに与えてくださいます。神は与えてくださるのです。

自らの力に頼って歩んでいると、与えられた霊的な恵みが評価されないのではないかと、あるいは、効力がないのではないかなどと恐れ、隠しておこうという誘惑にかられることがあります。けれども、神様は、私たちが信仰における歩みの一歩を踏み出し、与えられた恵みを用いるのに必要なものすべてを与えてくださいます。今日与えられている勇気を分かち合い、祈りに対する神様の応えをたたえ、そして、困難な状況にあっても神様の偉大さについて語りましょう。

聖歌 604

祈り 聖なるお父様。あなた様が、驚くほど私たちを思ってください、必要を与えてくださることへの讚美と感謝を捧げさせてください。そして、あなた様の救いの貴重な代価を覚えさせてください。神様の御手により天国へと導いてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ハロルド・L・サイモンズ
テネシー州 スミルナ

1月17日(土)

漁に出る

聖書朗読 マルコ 3:13~19

ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」 マルコ 1:16~17

私たち夫婦の結婚62周年のお祝いに、私は夫のエドに大きな魚用の水槽をプレゼントしました。エドは魚を見るのが好きで、ネオンテトラとプラティという魚を数匹飼っていました。彼の亡くなった後、プラティの雌が産卵し小さな赤ちゃんたちが産まれました。とても小さいけれど、完璧に形作られているのです。とても感慨深いものでした。

私は、この赤ちゃん魚たちを、十分に成長するまで保護ネットに入れて育て、大きくなってから、水槽に放ちました。水槽の中の小さな家々や藻の中を探検するのは、彼らにとってワクワクするものだったでしょう。彼らはディズニーランドにでもいるような気分だったのではないのでしょうか。

ペテロとアンデレは、漁師でした。私たちが口にしていくような魚を獲る漁師です。主が人間をとる漁師にしてあげようと、彼らを招かれたとき、彼らはどんなに興奮したことでしょう。主は、見るべき場所、そして触れるべき魂が多くある、その大きな世界へと彼らを放たれたのです。イエス様は、彼らが成長するのをご覧になり、どんなにか喜ばれたことでしょうか。

私たちも人間をとる漁師とされています。キリストご自身とみことばを、他の人々に伝えることができます。私は小さな赤ちゃん魚が成長していくのを見るのが大好きで、とても感動します。私たちが主のみことばを分かち合うとき、私たちは、そのみことばを伝えられた人々が霊的に成長するのを見ることができます。実に感動的なことではないでしょうか。

漁に出かけましょう。

讚美歌 329

祈り 親愛なる父よ。どうか、私たちが、大胆にあなたさまのみことばを人々に伝えることができるようにしてください。あなた様の御愛と偉大さを伝える機会を捉えることができるよう導いてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

スー・レーハム

カリフォルニア州 アンテロープ

1月18日(日)

そんなことは不可能

聖書朗読 マルコ 6:30~44

イエスは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、神にはどんなことでもできます。」 マタイ 19:26

弟子たちは、食糧もなく大勢の人が空腹でいるのを見たとき、イエス様が彼らと、丘に多くの群衆を必ず満たしてくださるといふことに心を向けることができませんでした。彼らは重大な任務に全く心を奪われ、神には出来ないことはないということが、すっかり心から消えていたのです。

1980年のエチオピアでは、何千もの人々が飢餓に苦しんでいました。けれども、神は、荒野をさまようハガルをご覧になり必要なものをお与えになったように、このときも、エチオピアの人々に目を留められました。クリスチャンたちをその地に送り、食糧を提供させてくださったのです。1984年のポーランドでは、政争による混乱から国中が餓死寸前の状態となりましたが、神はクリスチャンを送って、彼らに食糧をお与えになりました。そのような共産圏の国に入ることは不可能だと誰もが思っており、赤十字でさえ、クリスチャンの兄弟姉妹らがその扉を開くまで、ポーランドに入国することは許されなかったのです。今週、私たちの団体「命の船」に、匿名で5万ドルの小切手が届きました。ちょうど、カンボジアの無力な弱い多くの人々を救う活動をしている「命の船」の運営資金が底をつきそうになっていたところだったのです。

クリスチャンであっても、そんなことは不可能だという思いにより、信じられなくなっていることはありませんか。神の能力を超えたものは何一つ無いのです。あなたの持っているものを用い続けてください。食糧であれ、金銭であれ、才能であれ、何であっても神様が何倍にもしてください。

讚美歌 9

祈り お父様、あなたに不可能な事はないと知っていますが、疑いや困難が生じたときに、どうかイエス様にある私たちの信仰を強めてくださいますように。

アーメン。

ウィリアム・E・マクドノー
カンボジア 命の船